

## ならちゆうしん経営研究会 例会報告

### 第 345 回 研究会

**日時** 令和 2 年 12 月 16 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 30 分  
**場所** 奈良中央信用金庫 3 階 ホール  
**講師** 信金中央金庫 地域・中小企業研究所  
          **首席主任研究員 角田 匠(つのだ たくみ) 氏**  
**テーマ** 「コロナ禍の経済情勢と今後の展望」

最初に、上田会長より開講の挨拶があり、年末の恒例となりました経済セミナーを開始しました。例年どおり信金中央金庫の角田先生を招いて、今回は「コロナ禍の経済情勢と今後の展望」と題して、当面は続くコロナ禍の経済情勢と展望などについて、お話を頂きました。

コロナの影響で 2020 年 3 月～6 月にかけて急速に落ち込んだ経済活動は 7 月～9 月に持ち直しましたが、2019 年 10 月の消費税増税以降、GDP にして 60 兆円の落込みが 27 兆円回復したに留まります。景気の回復に寄与しているのが輸出の持ち直しでリーマンショック後より回復テンポは速く、製造業を牽引している世界の自動車販売の V 字回復や次世代通信規格「5G」やテレワークの広がりが電子機器の需要を下支えしていることが要因です。一方、個人消費は回復の勢いが弱く、特に個人消費の 60% を占めるサービス消費が外食産業やインバウンド需要が消滅した観光産業、旅客業の落込みにより回復のテンポが鈍い状況です。政府による緊急経済対策の効果もあるものの、年末賞与を減額する動きが相次ぐなど雇用・所得環境は厳しく、現在、第 3 波に見舞われ国内感染者が急増しており、更に第 4 波、第 5 波の襲来も予想されることから、個人消費の落込みによる景気低迷は来年も続くとの予想です。

海外情勢としては、来年よりアメリカ大統領選挙に勝利したバイデン政権が発足します。バイデン大統領は財務長官に元 F R B 議長のイエレン氏を起用する予定で F R B との連携が深まる公算が高く、低金利政策によりドル安（円高）が容認される可能性があり、日本経済にとっては不安要因となります。

最後に日経平均株価を予想頂きました。趨勢的な動きを示す 200 日移動平均線からの上方への乖離率が大きくなり足元の相場には過熱感が表れていることから、今後、調整局面に入るとは思われますが立ち直りも早いとの予想です。毎年恒例の干支のお話しでは、「丑つまりき」という格言があり、丑年の平均騰落率は  $-0.1\%$  です。来年はコロナ再拡大やアメリカの新政権による政策運営など不安要因を抱えており、前半は下がり後半は持ち直しての横這いと予想されました。

講演のあとも、参加者より世界の経済動向に対する多くの質問があり、盛況を持ちまして、2020年の経営研究会を締めくくりました。

以上



上田会長 ご挨拶



講師 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 角田匠氏